

【特集】

未来の森、セイサク中。

地球環境を保護するために、持続可能な社会を実現してそれを次世代に引き継いでいく、その実現に向けてムラタができることはなにか。森林保全活動は、その取り組みのひとつです。

「ムラタの森」活動

4月18日、汗ばむほどの陽気のなか、京都府亀岡市宮前町の「ムラタの森」で、2009年度第1回森林保全活動が実施されました。地球温暖化防止に貢献できる森づくりとともに、森林保全をベースとしたさまざまな活動を提供することで、従業員やその家族の達成感や満足度向上に一役かうことを目的とした「ムラタの森」。2007年7月に京都モデルフォレスト協会、京都府、亀岡市とムラタが協定を結び、地元保全会など関係者と調整を重ね、2008年6月よりほぼ月1回のペースで活動を続けています。この日も従業員とその家族からなるボランティアメンバー68名が参加。地元の森林組合や京都府、亀岡市の職員のみなさんの指導のもとに、間伐作業をはじめとする森林整備や整備活動後のイベントとして「ひらたけの菌打ち体験」を行いました。

「毎回参加している。来るたびに森が明るくなっているのが嬉しい」「仕事で環境のことに取り組んでいるので、やっぱり来ないとね!」「子どもにいろいろ体験させてたくて」…森の中の一日を存分に楽しんでいる声がいくつも聞こえてきました。また、富山村田製作所でも2008年11月より富山市亀谷、立山連峰の入り口に当たる場所で、「ムラタの森」活動を実施。カシノナガキクイムシの被害にあった森に100本のブナの苗木を植林しました。100本植えても、大木になるのは2~3本。森を守り、育てるのは50年、100年の仕事です。ムラタでは、今後も森林保全活動をはじめとした従業員の自発的・持続的な活動を進めていきます。



下草や枯れ枝が取り除かれた広場は、キノコの圃場として整備されました。



富山村田製作所では植林を。苗木の生長は1年にほんのわずか。ゆっくり見守ります。

「森とともに元気になれる」そんな活動になることを目指しています。

「ムラタの森」をはじめめるにあたり、まずこだわったことは活動場所。少しでも多くのメンバーに参加してもらいたい、そのためにいろいろな場所を見てまわり、やっと巡り合えたのが現在の「ムラタの森」でした。アクセスや施設の良さだけでなく、地元の方々もとても温かくて、まるで「田舎のおばあちゃんの家」に帰って来た」そんな気分がさせてもらえる素敵

なところ。活動2年目なので、まだまだ使い慣れない道具を手にも悪戦苦闘していますが、森を守ることの大切さを学び、おいしい空気を吸いながら汗する心地よさを知るなど、森からの贈り物もたくさんあります。これからも「楽しみながら」をモットーに、森とともに自分たちも元気になれる、そんな活動になるよう地道に続けていきたいと思っています。

株式会社村田製作所
環境管理部

後列 左から 神野 英雄
西村 正人
前列 左から 中田 佳代
細見 桂子



子どもたちの環境保全の意識を育てる環境学習

ムラタでは、事業や製品の供給において環境に配慮した活動を展開するだけでなく、社会的活動を通して環境への貢献を推進しています。小中学生を対象とした環境学習もそのひとつ。各拠点において、その地域の小中学校と協力しながら、「地球温暖化」や「3R(リデュース、リユース、リサイクル)」などのテーマで、授業を展開しています。先生役は、ムラタの従業員。学

校へ出向いて行う「出前授業」の他、子どもたちを会社に招き、環境学習とあわせて実際に行われている省エネや廃棄物の分別を見学するなど、学校からの要望に応えるようにしています。一例を挙げれば、宮城県の登米村田製作所では、2008年度までに6つの小学校、およそ200人を対象に授業を行いました。市内に27校ある小学校すべてを招くことが、当面の目標です。



登米村田製作所の環境学習風景。クイズ形式の授業は、子どもたちの能動性を引き出すことができるので、とても賑やか。隣の部屋で作業している従業員がのぞきに来るほどです。